Newsletter　URL:www.savechildren.or.jp　0120-317-502

world's children

Save the Children JAPAN　発行元 社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
〒103-0021　東京都中央区日本橋本石町3-2-6 ストークビル８F　Phone:03.3516.8922

Spring 2007 vol.39

セーブ・ザ・チルドレンのグローバルキャンペーン
「Rewrite the Future～いっしょに描こう！ 子どもの未来～」

子どもたちからのメッセージが続々届いています！



「Rewrite the future ～いっしょに描こう！子どもの未来～」は、紛争の犠牲となって学校に行けない子どもたちに教育の場を提供し、安全な環境と未来を変える力を与えることを目的とした教育支援キャンペーン。昨年から始まったこのキャンペーンは、たくさんの反響をいただき、再び学校に行けるようになった子どもたちの数も増え続けています。そんな子どもたちから届いたメッセージをいくつかご紹介しましょう。

同じような思いをしている子どもたち、厳しい状況に置かれている子どもたちが、世界にはまだたくさんいます。セーブ・ザ・チルドレンは、引き続きこのような子どもたちを支援していきます。

「学校にも行けず、一児の母になりました」

コンゴ
シーファ（15歳）



私には１歳の息子がいます。私は、紛争が絶えない地域に生まれ育ちました。父は看護士、母は補助教員をしていました。11歳か12歳のとき兵士によって家族は村を追われ、私は武装集団に捕らえられました。そこで子どもを授かり男の子を一人産んだのです。

私が家に帰ったとき、両親はとても喜んでくれました。私もとても嬉しかったです。だって、私はまだ子どもだし、学校に行くべきだから。

戦争はたくさんの悲劇をもたらしました。大人も死にました。子どもも死にました。学校はなくなりました。私たちは滅ぼされるのを待つのではなく、自らが武器を持って立ち上がるべきだと思いました。戦争やそれに伴う暴行にもうんざりです。だって、暴力の結果として、私は子どもを授かったのだから。

「教育が私に未来を与えてくれた」

私は今スーダン南部のルンベルク近郊にお父さんと妹といっしょに住んでいます。私は学校が大好きです。いっしょに遊ぶ友達もいます。友達がいるってすてきなことです。私は幼い頃学校に行くことができなかったから、同年代の友達がいないのは残念なことだけど、今はただ友達がいるってことが幸せなの。

私のおじさんは銃で撃たれて死にました。おじさんの子どもたちも敵兵に連れ去られて以来、消息がわかりません。村に一つだけある学校はずっと閉鎖されたままだったし、敵兵にいつ攻撃されてもおかしくない状況が続いていて、外に出ることもできなかった。

学校が私の人生を大きく変えたと思います。学校では、服をちゃんと着ることの大切さや、清潔を保つ方法を教えてもらったり、その他にも調理器具の使い方を習って、それをお父さんに教えてあげました。私は、子どもにも権利や言論の自由があること、学校に行く権利があることを学校に行って学びました。教育は私に未来を与えてくれたと思っています。

もっと多くの女の子が教育を受けられればいいのに。戦争の教育を受けるより、生きるための知恵を学んだ方がはるかにいいと思うし、もし世界の子どもたち皆が学校に通えて、正しい教育を受けることができたなら、きっと戦争はなくなると思います。



スーダン南部
メアリー（12歳）

「将来のために学校に行って勉強したい！」



13歳のときネパールの毛沢東主義のゲリラが僕たちの学校にやって来て、たまたま逃げ遅れた僕はゲリラに捕まってしまったんです。

僕はしばらくの間ゲリラによって拘束されていました。ゲリラの司令官がいつも僕のことを見張っていて、暴力を振るうので、僕の体はあざや生傷が絶えませんでした。ある夜、僕にチャンスが訪れました。僕は何のためらいもなく逃げ出しました。拘束されてから、9カ月がたっていました。

それから軍に拘束され、ゲリラに援助した村の名前をいうように強要されました。僕は密告した裏切り者と思われているため、家に帰ることもできません。今は、セーブ・ザ・チルドレンの支援によって運営されている、十代の若者を対象にリハビリやトレーニングを行う施設に保護されています。毎日を安全に過ごせることに、とても感謝しています。今の僕には、勉強しなきゃいけないことがいっぱいあります。将来何かできるようになるために、学校に行きたいと思っています。

ネパール
ヘナン（15歳）



DATAで見るSC
セーブ・ザ・チルドレン

カンボジアやネパールで子どもが学校に通うためにかかる費用は年間※￥6000。この金額を他のもので比べてみましょう。

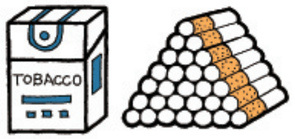
※学費以外に学校の建設費や設備費、文具代などを含む。

1人の子どもが学校に通うために必要な費用は、年間＄52≒6,000円。
子どもたちに必要な6,000円の価値を他のものに換算するとどれくらいになるのでしょう。
その価値をわかりやすくするために、身近なものと比較してみました。
より具体的にイメージすること、それが支援の第一歩です。その想像力が、子どもたちとの距離をより近くしてくれるはずです。

マクロな視点で　これだけの子どもたちが1年間学校に通えます。

単位
1億人　1000万人　100万人　10万人　1万人

タバコ年間総売上(日本国内)　￥4,078,400,000,000　679,730,000人



1億 1億 1億 1億 1億 1億 1000万 1000万 1000万 1000万 1000万 1000万 1000万 100万 100万 100万 100万 100万 100万 100万 100万 100万 10万 10万 10万 10万 10万 10万 10万 1万 1万 1万

戦闘機　F-15　￥12,000,000,000　2,000,000人



100万 100万

この金額を１年間にどれだけの人数の子どもたちが学校に行けるかに換算してみました。これだけのお金があったら、多くの子どもたちがもっと幸せになれるのに…。考えさせられる数字です。

ミクロな視点で　ひと月ワンコインの節約で子ども１人が1年間学校に通えます。


ラーメン1杯

たとえば
月にコーヒー1,5杯分の支援で、
１人の子どもの人生を
変えることもできるのです。

コーヒーなら1,5杯




ケーキ1個




ビールジョッキ1杯



タバコなら1,6箱


ビニール傘1本

From SCJ



園田智也（そのだともや）
1979年生まれ。英国サセックス大学で地域開発学を学ぶ。2006年7月からセーブ・ザ・チルドレン アフガニスタン駐在員として勤務。

アフガニスタンレポート

アフガニスタン駐在員の園田スタッフから、現地の学校教育の現状と現地の様子についてレポートが届きました。

アフガニスタンの治安について

アフガニスタンでは、まだあちらこちらに戦争の爪痕が残っています。今でも内戦中に使用されていた戦車が、空き地や道路脇に放置されたままになっており、時折その車体や大砲の上で遊んでいる子どもたちの姿を見かけることもあります。私自身について言えば、直接的には危険な目にあったり被害を受けたことはありませんが、警官がバザールで大きな銃を肩から提げて歩いていたりと、アフガニスタンではまだまだ治安に対しての高い意識が必要といえます。一人で出歩かない、外出を極力控える、目立つ行動はしない、といったことは基本的なルールとして心がけています。

学校教育における問題点

アフガニスタンの学校教育の現状は、学校数と教室数が生徒の数に追いついていないという非常に厳しい状況です。SCJ事業地であるパーミヤン北部のサイガン郡では、校舎を持たない公立小学校もあり、子どもたちは木陰やテントを使って授業を受けています。パーミヤン中央郡などでは、コンクリートでできた１階建ての校舎をよく目にしますが、ひとつの校舎を使って、生徒が入れ替わり立ち替わり教室を使うというシフト制を用いていることがよくあります。校舎やそれに伴う設備などの未整備が大きな問題として残っています。

また、子どもの就学率の低さも学校教育の普及の障害となっています。サイガン郡では、学年が上がるにつれて生徒が減少する傾向が多く見られます。その要因として、学校教員の質や親が教育に無関心であることがあげられます。多くの子どもたちが、農作業や家事など家庭内の仕事に従事しなければならないなど、家計を支えるために日々働く必要性に迫られているのです。

日本のサポーターのみなさまへ

武力紛争の体験と記憶を持つ子どもたちは、現在SCJの教育事業を通して、これまで奪われてきた学ぶべき時間を取り戻すため、懸命に励んでいます。SCJでは、当事者であるアフガニスタンの子どもたちの立場から教育事業を考えるということに重点を置き、新たな教育事業の計画づくりと実施を考えています。アフガニスタンの教育支援に暖かいご支援をいただき、心よりお礼申し上げます。



ご寄付のお願い

「子どもたちの力になりたい」あなたの気持ちと子どもたちをつなぐセーブ・ザ・チルドレンの活動に力を貸してください。
ご寄付は以下の方法からお選びいただけます。

●チャイルド・リンクは地域を選んで子どもたちを支援する継続サポートです

チャイルド・リンクは、アジア、アフリカ、ラテンアメリカから支援したい地域を選んでいただけます。チャイルド・リンクにご参加いただきますと、「代表の子ども」からのメッセージが入った定期レポート（年２回）とグリーティングカード（年１回）が届きます。代表の子どもの成長を通じて、支援を実感いただけます。
（月々 3,500 円〜）

● SC サポートは世界中の子どもたちを支援する継続サポートです

ＳＣサポートは、セーブ・ザ・チルドレンの活動全体をサポートしていただくプログラムです。地域や事業を問わないので、いただいたご寄付はその時々に応じて必要な場所で必要な事業に活かされます。ＳＣサポートにご参加いただきますと、セーブ・ザ・チルドレンの活動内容がわかる定期レポート（年２回）とグリーティングカード（年１回）をお届けします。
（月々 1,500 円〜）

●一般寄付

ご寄付は、随時受け付けております。振込手数料免除の下記口座をご利用ください。

振込先：郵便振替口座00900-1-120760
加入者名：セーブ・ザ・チルドレン子ども基金

※税控除について
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、特定公益増進法人として外務省の認可を受けています。いただいたご寄付は、一定の要件下で控除の対象となります。申告の際には、「特定公益増進法人の証明書」と「寄付領収証」が必要になりますので、必要な方は事務局までご連絡ください。

Save the Children JAPAN
詳しくは下記のフリーダイヤルかウェブサイトでお問い合わせください。
0120-317-502（平日9:30〜18:00）
URL:www.savechildren.or.jp

私たちを忘れないで！ スマトラ2年レポート



2004年12月26日に発生したスマトラ沖地震・津波から2年が経過しました。世界の関心は薄れつつありますが、被災地の子どもたちや家族は依然として困難な状況にあります。セーブ・ザ・チルドレンは、現在も被災した地域での支援活動を継続しています。



皆様のご支援が、被災地の子どもたちの大きな支えとなっています。

セーブ・ザ・チルドレンの災害直後の迅速な救援活動は大きな成功を収めました。緊急期から復興期へと移行し、現在は5ヵ年計画として包括的な支援活動を展開しています。

皆さまのご支援が、確実に現地の子どもたちに届いていることをお伝えするため、２年レポートをウェブサイトにアップしました。インドネシア・スリランカ・インド・タイ・ソマリアの各支援国での活動状況とファイナンシャル・サマリーを報告しています。また、アチェで活動中の日本人スタッフの声もお届けしています。ぜひ一度お読みください。

パートナーニュース　Partnership

日本でもCSR（企業の社会的責任）への認識が高まるなか、セーブ・ザ・チルドレンへもさまざまな企業から暖かいご支援をいただいています。企業の取り組みの一部をご紹介します。

500人の子どもたちの小学校教育をバックアップ
●クリード

株式会社クリードには、ネパール中西部ダン郡での教育事業にご支援を頂いています。ネパールではマオイスト（ネパール共産党毛沢東主義派）と政府軍の抗争により、多くの人々が国内避難民としてマオイストの支配力の弱い地域に移住しました。2006年11月の和平合意後も未だに多くの人たちが避難生活を送っています。事業では、紛争の影響で教育を受ける機会に恵まれない子どもたち約500人が小学校教育を受けられるようにするためにご支援をいただいています。



auオークションで広まる支援の輪
●KDDI



KDDI株式会社には、「auオークション」を通じてご支援をいただいています。2005年の映画「STAR WARS」とタイアップしたチャリティオークションによる落札金をご寄付いただいたのをはじめ、2006年にはEXILE、レミオロメン、絢香など人気アーティストとのタイアップによるチャリティオークションの企画・実施による収益金をご寄付いただいています。

ビジネスから支援へ “子どもの目線”がつなぐ活動
●GMP インターナショナル

株式会社GMPインターナショナルは、「エアバギー」の製造販売を通じて、ライフスタイルを提案しています。グローバルな視点での商品開発とオンリーワンを目指す志向で育児ライフを応援します。『世界中の助けを必要としている子どもたちのために、私たちができること』をテーマにセーブ・ザ・チルドレンの活動をご支援いただいています。



“子どもに笑顔を”の思いを製品化、そして支援へ
●ナチュラルサイエンス



株式会社ナチュラルサイエンスは、親子で使える「ママ&キッズ」というスキンケア製品の製造・販売を行っています。創立10周年を迎えて「たくさんの子どもたちを笑顔にすることができたら…」の思いで始まった『スマイルキッズ・プロジェクト』では、たくさんの子どもから“大好き”の絵が集まりました。この絵を乳液「オリゴミルク」にデザインしたスマイルキッズボトルの収益の一部をご寄付いただいています。

Topics!

「HAPPYをさがしてあるこう 〜9歳の女の子が贈るしあわせになるための30の方法〜」
リビー・リース著［メイツ出版］



©Fritz Curzon/ Save the Children

リビーは、イギリスで暮らす女の子。9歳の時、両親の離婚から立ち直るためにつづっていた「悲しい気持ちから立ち直るためにやる事リスト」をまとめた本を出版。それが話題を呼び、今日では世界各国で翻訳され出版されています。リビーの意向により本の売り上げの一部は、セーブ・ザ・チルドレンに寄付されています。

セーブ・ザ・チルドレンの青年大使として、「いっしょに描こう！子どもの未来」キャンペーンでも活躍中のリビーからセーブ・ザ・チルドレンにメッセージが届きました：

「本の売上の一部を子どもたちのための団体に寄付したいと思って、いろいろな団体の中から、セーブ・ザ・チルドレンに決めました。世界中の子どもたちを支援しているというところが気に入りました。どこの国であるかに関わらず、すべての子どもたちは同じように大切にされるべきです。多くの子どもたちが自分が置かれた状況をどうすることもできない中で、だれも何も行動を起こさなければ、何も変わらないのです。それぞれが自分たちができることを考えて、このような活動を支えることがとても大切なんだと思います。いっしょに行動することで、子どもたちの明るい未来を作ることができるのです。」

← “Save the Children特別功労賞授与式で英国セーブ・ザ・チルドレン総裁アン王女と”